

NHK「勝敗を越えた夏 2020

～ドキュメント日本高校ダンス部選手権～」

高校ダンス部の チームビルディング

中西朋

ユニゾンダンス

「同調」

と

ソロダンス

「個性」

は

両立できるのか？

部活ダンスから紐解く、日本の未来のチーム像

高校生たちに寄り添い続けた 200 時間に及ぶ密着取材、
ここに完全収録。

NHK BS-1「勝敗を越えた夏2020
～ドキュメント日本高校ダンス部選手権～」

待望の書籍化！

高校ダンス部のチームビルディング

NHK「勝敗を越えた夏2020」
「ドキュメント日本高校ダンス部選手権」

中西朋

星海社

172



SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに

「勝敗を越えた夏 〜ドキュメント日本高校ダンス部選手権〜」とはNHK B S ー1で、2018年から毎年9月の終わりに放送されてきたドキュメンタリー番組のことだ。

大阪府立登美丘高校の「バブリーダンス」や夏の甲子園大会のコマーシャルで有名になった、高校生たちによる「部活ダンス」。ダンスに打ち込む思春期の少女たちの姿を通して、みずみずしい青春とそこに芽吹く新しい価値観を描き出そうとしてきた。北海道から沖縄まで部活動の中心となる2・3年生、つまり17歳から18歳の若者が主な被写体である。

ドキュメンタリーの副題に入っている「日本高校ダンス部選手権」とは国内最大級の高校ダンス部の大会「ダンススタジアム」のこと。このプロジェクトの撮影は例年、新チームが結成される春から大会本番が行われる夏まで続く。

私は企画、ディレクターとして初回から全ての学校取材を担当させてもらっている。

これまでも様々なテレビ局の番組やBlu-ray作品でいわゆる密着ドキュメンタリーを企画してミュージシャンやデザイナー、アスリート、経営者、映画監督などの活躍の舞台裏と知られざる素顔を撮影させてもらってきた。被写体はその時代を象徴するプロフェッショナルばかりだった。

一般の高校生を描く「勝敗を越えた夏」の撮影が動き出した2018年春、私はカメラマンやアシスタントを含めて4人ほどのクルーを組んで学校に通い始めた。カメラマンには音楽のプロモーションビデオなどで用いられる大型カメラを使ってもらった。一般の高校生を主役にするためには彼女たちをきれいに写した方が良さだろうと考えたのだ。しかしこの撮影プランはまるでうまくいかなかった。編集室で映像素材を見返してもサッパリ面白くない。多感な彼女たちは、大きなカメラを構えた撮影クルーを前にすつかり「よそ行き」の顔になってしまっていた。大人数でやってくる私たちに対して露骨に嫌な顔をする拒否反応さえあった。端的に言って、部活の邪魔だったのだ。

反省した私は、1人で各地のダンス部にうかがうことにした。家庭用に近い小型カメラを持って。

しばらくすると彼女たちの表情や発言は「ありのまま」になった。その「ありのまま」

で十分に素晴らしい映像が撮影できた。彼女たちのダンス練習はいつ見ても面白かったし、下校中に話してくれた言葉には深く考えさせられる本音が詰まっていた。それらは社会人になってから良いチーム・良いコンテンツを作りたいと、もがいてきた自分にとって学びとなる内容ばかりだった。私はダンス部の高校生に尊敬の念を持つようになり、自然と敬語で話すようになった。こうした発見や驚きをみなさんにお伝えしたくてこの本を書くに至った。

毎年完成したドキュメンタリーにはダンスを愛する人たち、部活ダンスファンはもとより、ビジネスマンの方々からも大きな反響をいただく。その多くが高校生が見せる優れたチームワークについての声だ。そこに日々の仕事をより良くするヒントが含まれていると考えた人もいた。

その1人が星海社の編集者である築地教介氏だ。氏は高校ダンス部のチームワークを本にまとめることは星海社新書の幅広い読者に大きな意味があると考えた。

今後どんな会社や組織でも働き方が多様化し、仕事への向き合い方、熱量と時間のか

け方は人それぞれになっていく。これを家庭に置き換えても同じことだと思う。その時、最前列で活躍するエースだけでなく、全員が自分の役割を実感しながらチームに参加できたらどんなにいいだろう。

彼女たちの姿を通して、日本の未来のチームを考えてみたい。

「勝敗を越えた夏」は99分の放送だがその撮影素材は200時間を超える。この本ではドキュメンタリーを編集していく過程で惜しくもカットした部分も含めてお伝えしたい。



目次

はじめに 3

第一部

勝敗を越えた夏

16

人生をかけた2分30秒 18

勝敗のカギを握るのはユニゾン 22

コロナが「部活ダンス」を襲う 24

練習中にしゃべれない！ 28

思い出の公園 32

言い訳は進歩の敵 38

コロナ禍でのリモート部活 43

「どうする？ 新入生」 47

出遅れた1年生を迎え入れるには？ 49

まさかの予選敗退。しかし…… 53

2017年の「バブリーダンス」 54

高校生による国内最大のダンス大会 57

2018年 最初のドキュメンタリー撮影 62

スターだけでなく、チームで踊る 66

「日本一はどのチーム？」から「勝敗を越えた夏」へ 68

「今の子が言ってくれたのとだいたい一緒なんですけど」 72

ダンス部卒業生インタビュー 1 74

NYでダンスの楽しさを思い出した 75

「そろえる」難しさと喜び 79

高校時代に戻りたいこともある 82

「1位かな」 84

第二部

そろえて踊る「部活ダンス」の明と暗

88

2020年コロナ禍でのダンススタジアム 90

帝塚山学院「日本一の練習」 93

今年こそ結果にこだわりたい 100

リモート技術をいち早く取り入れたチーム 103

ついに対面部活が再開。しかし…… 110

地区大会のステージへ 114

リモート部活で順調だったチームがなぜ……？ 116

学校の枠を越えて活躍する「部活ダンス」 120

愛知県の注目校 コロナ禍での再会 122

彼女たちの表現力の源は？ 127

涙の討論会 130

感情表現の秘密 136

そろえる＝個性が消える？ 139

自由には戸惑いも…… 145

ダンス部卒業生インタビュー 2 152

技術以上に大切なもの 154

「ダンスをやりたいだけなら、スクールに行けばいい」 156

新しい出会い 159

「好き」なら苦しくても続けられる 160

人に寄り添いたい 163

第三部

未来のチーム 168

コロナ禍での「トップ3」 170

久米田高校に訪れた試練 171

105日ぶりの部活再開。そして車中の本音 180

初優勝を狙うための作戦 184

2人のダンスリーダー 186

ダンス部卒業生インタビュー 3 205

かつての久米田は強豪校ではなかった 206

「あたたかい世界やな」って 208

私たちはそういうレベルの子たちではない 211

久米田のダンス部で教えたい 214

「絶対無理やで」が「信じればいけるかも」に変わる 217

第13回日本高校ダンス部選手権「ダンススタジアム」 221

2年ぶり6度目の全国優勝を目指す同志社香里 222

多数決を使わない創作 2019年の同志社香里 225

2020年同志社香里の挑戦「テーマがない!？」 233

たったひとりの外部生 235

前年よりも創作時間がない！ 238

「キャラ出していいんやで」 240

2年生の気づき 244

「この曲に15人います」 246

大会直前彼女たちは？ 249

2020年8月19日 253

日本高校ダンス部選手権 歴代成績（2008～2020） 260

あとがき 264



第一部 勝敗を越えた夏

人生をかけた2分30秒

2020年8月19日。「日本高校ダンス部選手権 ダンススタジアム（通称…ダンスタ）」の全国大会が、パシフィコ横浜・国立大ホールにて行われた。この日は13人から40人のチームで競われるビッグクラス。今年の参加は182校で、地区予選を勝ち抜いた35校が決勝となる全国大会への切符を手に入れた。

「ダンスタ」は、2019年の冬から始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行、いわゆる「コロナ禍」で行われた数少ない高校生部活動の全国大会だ。野球の甲子園大会やインターハイをはじめ、部活動の大会が軒並み中止・延期されたなかでは、異例とも言える開催だった。

ダンスタは、2017年「バブリーダンス」で大きな話題となった登美丘高校が2015年、2016年に優勝した大会としても知られている。

この大会の参加資格は高校の部活動であること。ゆえにこの競技ダンスは「部活ダンス」と呼ばれる。高校でダンス部に所属する生徒は4万人を超えと言われており、部活ダンスはひとつの文化と呼べるほどの規模に成長している。毎年全国大会にやってく

る強豪校ともなれば、「ダンスをするためにこの高校に入った」と断言する生徒も珍しくない。

勝敗を分ける演技の時間はわずか2分から2分30秒。彼女たちはこの瞬間のために高校生活の多くを費やす。ステージとなるパシフィコ横浜・国立大ホールの客席数は約5000。普段はトップアーティストがライブを行う巨大会場であり、全国ダンス部の高校生にとって野球部の甲子園に並ぶ夢の舞台と言える。

全国大会で踊り終えた直後、彼女たちはカメラに向かってこう言った。

「どんなにつらいことがあっても、この本番にかけてきた3年間なので自分にとってはとても大きな2分10秒でした」 山村国際高校部長 堀愛生さん

「一言でいうと宝物です」 光ヶ丘女子高校部長 多賀葉彩希さん

「いい作品ができず立ち止まっていたりもどかしい気持ちになっている時間が



光ヶ丘女子高校



山村国際高校



都立三田高校



同志社香里高校

長かったんですけど、やっと今回納得がいく自分たちで最高の作品と思えるものができたんで……もう結果は関係ないです」 同志社香里高校 尾崎凜さん

「死んでも生まれ変わっても覚えておきたいなってくらい、今日の一本は楽しかったです」 久米田高校 岡崎真樹さん

これまでの人生で最高密度の2分30秒をたったいま完了したと、息を弾ませて語る彼女たち。その表情は誇らしげだった。

足掛け3年、彼女たちを追いかけることで覚えてきたものを、「感心」といった簡単な言葉で表すことはできない。その内容は本書でおいおい記していく。

勝敗のカギを握るのはユニゾン

ダンススタジオの特徴は、出場する部員の半数以上がダンスの振りをそろえる「ユニゾン」を最大の評価基準にしていること。人数の多いビッグクラスでは最大40人がユ

ニゾンで動きを合わせる。

手をムチのようにしならす「ワック」と呼ばれる動きをそろえたり、全体で鳥の群れを表現したり、振りとフォーメーションに工夫を凝らして各チームがその出来栄を競い合う。

これは部活動を通して、ダンス技術を向上させるだけでなく人間的な成長をしてほしいという大会運営側の理念とつながっている。身体能力の高低やダンス歴の長短といった差をいかにカバーしてひとつの演目に仕上げるか。踊りのうまいエースだけが活躍するのではなく、全体のレベルを上げた学校に優勝への道が開ける。このルールがあるせいか、強豪校のダンス部には「自分の技術を磨く」ことと「チームメイトに教える」ことを同時に行う空気が自然と出来上がっている。

毎年ステージで展開する練り上げられたユニゾンを言葉だけで説明するのは難しい。インターネットに各学校の公式動画が上がっているので、興味を持たれた方はぜひご覧になって読み進めていただきたい。

コロナが「部活ダンス」を襲う

2020年2月。今年も夏の大会に向けたダンス部員たちの練習風景をカメラに収めようと、私は撮影準備を進めていた。その矢先、新型コロナウイルスの感染拡大が報じられる。

2月27日 安倍首相が全国一斉休校要請

3月11日 春のセンバツ高校野球中止決定

3月24日 東京オリンピック・パラリンピック延期決定

4月7日 感染者の多い7都府県で緊急事態宣言

4月16日 緊急事態宣言が全国へ

4月26日 インターハイ中止決定

休校に伴い全国のダンス部も活動停止。見聞きした中では3月2日から中断というチームが多かった。この頃、感染者数の多かった北海道・札幌にある北星学園女子高校ダ

ンス部の3年生、瀬戸彩楓さんと福島由那さんは手紙のやりとりをしていた。文面には踊りたくても踊れないダンス部員の揺れる心情が綴られている。

瀬戸さん「コロナの影響で練習できない間、忘れたくても大会のこと毎日考えちゃうんだよね。やっぱりそれだけダンス踊るの好きなんだなって思っ
て。ダンス部の1人として過ごすのはもう一生訪れないから最後までやり切りたいと思ってる。途中でやめたら後悔すると思うし」

福島さん「この頃、なんでコロナっていうウイルスが出てきたんだろうしか考えれない。コロナなんて無ければ皆にも会えたたくさん思い出作れたのに。こんな呆気なく高校生活奪われるとは思わなかった」

ダンススタジアム2020年大会の開催が発表されたのは緊急事態宣言のあけた5月下旬のことだった。高校生の部活動大会では前述の高校野球やインターハイ、さらには主だった合唱コンクールや吹奏楽コンクールまで中止が発表されていた。

こうした状況下でのダンスタ開催の報。全国大会常連の都立狛江高校ダンス部副部長の木村有沙^{きむらありさ}さんはこう話してくれた。

「最初は甲子園や吹奏楽コンクールがなくなって、同じ高3でも大会をやれずに終わってしまった同級生が多い中、私たちだけがいいのかなくて気持ちもあつたんです。でも今はその子たちの分まで頑張ろうと思っています」

私はダンスは競わなくても成り立つから、コロナ禍の今コンテストにこだわらなくても、とそれとなく聞いてみたら、彼女はほとんど間をおかずに、

「確かにダンスは見る人によって感じ方も違うし、ジャンルも違うから比べるのが全てではないと思うんですけど。私たちが頑張った証として評価をいただけることがありがたいと思っています。良い結果を残すために頑張ろうと思います。ダンスタの大会だけが私たち3年生が踊れる最後の機会として開催を決めてくれたので」

8月18日に2人から12人で踊るスモールクラス、翌19日に13人から40人で踊るビッグクラスと大会は事務局が定めた新型コロナウイルスの感染拡大防止のレギュレーションにのっとり2日間にわたり開催された。入場時の検温とアルコール消毒はもちろんのこと、4チーム踊るごとにステージをモップがけしつドアを開放して換気。関係者以外は無観客。室内でのウォームアップや柔軟運動の禁止。本番ステージ以外はマスクを着用するといったものだった。

ビッグクラスで地区予選を勝ち抜き全国大会出場を決めた35校のうち7校は出場を辞退。新型コロナウイルスへの対応は学校によって大きな違いがあった。それは5月中旬から段階的に再開されたダンス部の練習についても同じこと。感染者の多かった首都圏の高校は練習にとりわけ大きな制限を受けた。しかしそんな中でも高い評価を受けるダンス作品を作り上げたチームがある。

練習中にしゃべれない！

埼玉県坂戸市にある山村国際高校。6年連続全国大会に進んでいる関東の強豪校だ。2019年は8位入賞という好成績で、2020年はさらに上位を狙っていた。この学校が休校明け本格的に部活を再開したのは6月22日のこと。大会の58日前だった。私は顧問の原田涼子先生と何度もオンライン打ち合わせをして、撮影の安全性を確認した上で訪れた。

校内でまず目についたのは、ひと席ずつ飛沫対策のついたてが付けられた食堂。その隣の廊下でダンス部は黙々と柔軟運動をしていた。踊る前に全学年の部員が教室に集められ、先生から部活再開に当たったての注意事項が告げられた。

「部活動が今日から始まっていますが、様々な制限があります。これを皆さんに共通認識として守っていただきたいと思っています。もしなにか起きてしまったら部活動自体が全くできなくなりますので」

しばらく「密」を避ける諸注意が続いたあと、

「練習中の声出し、返事も今までは必須だったと思うんです。運動部に関しては大声でのやりとりが日常だったと思うんですが、これに関しても規制を徹底していただきたい」

教室のダンス部員たちはうなずきながら話を聞いていた。しかし、運動中の声出しを必要最低限に抑えるコロナ対策はチームの練習に大きな影響を及ぼすことになる。

いよいよ部活再開。まずは基礎。決まりのステップをそろえる練習だ。自然と全員による掛け声が始まった。

「ワン、ツー、スリー、フォー……」

そこにすぐツツコミが。

「待って、そうかしやべるのか！ みんな黙ろう！ どうしょっか？」

これまで通りに練習できない。結局、少数の部員だけが小さく声を出すことになった。

「ワン、ツー、スリー、フォー、ファイブ、シックス、セブン、エイト」

遠慮がちな声と共に進む基礎練。コロナ以前は、彼女たちの元気なカウントが校内に響き渡っていたというのに。

この日のダンス部は、バレエ部の活動終了後に体育館に移動。マイクを持って仕切るのは部長の3年生、堀愛生さん。

「30分ごとに手を洗わないといけないから、手を洗います。まずは3年生が行こう」

マイクを使うのは大声を出すのを避けるため。部活再開初日、堀さんの指示はダンス

のことではなくコロナ対策のことがほとんどだった。例えばマスクをしていない部員が話していたらすぐに注意をしていたし、踊る曲をかけるデッキに部員が触る際にも駆け寄って消毒するように促していた。久しぶりの部活が嬉しくてつい密になってしまいがちな部員に注意する姿は毅然としていた。

コロナ以前の山村国際ダンス部は2人1組になり、互いのダンスを見合って注意し合うことで技術を高めていた。しかし部活中の発声を極力減らすため、この練習方法も諦めざるを得なかった。

こうしたコロナがもたらした影響について3年生に聞いてみた。

「ネガティブな人だと、自分で間違いに気がつけるんですけど。ポジティブな人は、自分はできてるって思っちゃう場合も多いんですよ。そういう人は注意なしで振りを直すことが難しくくて」

自分を客観視できる人とそうでない人で差がつきやすくなってきている。さらにマスクの着用についてもこんな声があった。

「前は表情を見て会話ができていたのに、マスクしちゃってるし。そこでちゃんと通じてるのかどうか不安になります。表情が見えないのが一番……。みんなが何を思ってるかわからないので、意思疎通できてるのかな？ って思ったりして。さみしいなって思います」

部長の堀さんも「不安」と口にした。その表情は固くピリピリした空気をまとっていた。それもそのはず「もし部員にコロナ感染者が出てしまったら自分のせいだ」とまで考えていたという。私はコロナ禍でチームを引っ張っていく重責を思い、彼女のことを少し心配になった。

せつかく部活が再開できたのに……。

思い出の公園

私は部長の堀さんに単独インタビューを申し込んだ。他校でも練習再開の日を撮影さ

せてもらったが、どこも「ダンスができて嬉しい！」という発言が主だったので、不安気な山村国際高校が強く印象に残ったからだだった。

インタビューの当日、堀さんは別のダンス部員と一緒に現れた。堀さんからおずおずと、

「一緒にでもいいですか？」

と聞かれ私は思わずうなずいた。もう1人の赤池あかいけ由衣ゆいさん（3年生）は優しそうな雰囲気きんぎを漂ただよわせていたが、シャープな体つきは堀さんとよく似ていた。

私たちは電車を乗り継ぎ、堀さんの自宅の最寄駅へ。堀さんと赤池さんはご近所で、高校へは行きも帰りも1年生からずっと一緒だったという。

2人は「思い出の場所」に連れて行ってくれた。そこは互いの家の中間地点に位置する小さな公園だった。雑草が生い茂り遊具も何もないただの広場のようなこの場所で、2人は1年生から自主練をしていたそうだ。その時に撮影したスマホ動画をいくつか見せてもらったら、どれも夕方か夜のもの。2人は懐かしそうに「部活終わりにもう少し

踊りたくて寄ってましたから」と笑った。動画にうつる1年生の時の踊りと、3年生になつてからの踊りを見比べると段違いに成長していて、2人が真摯にダンスに向き合ってきたことが見て取れた。

赤池さんは初対面の私といってもニコニコとずっと微笑んでいた。そのうち堀さんが自然に語り始めた。

「部活で言えなかったりしてることを毎回2人になって帰り道にダァツて、1時間くらい話しちゃうんだよね。それをぜんぶ聞いてくれるので、ユイが」

彼女は赤池さんのことをユイと呼んだ。堀さんははにかんで続けた。

「ユイの前でしか泣けない時があるっていうか。ユイは何も言わずにずっと聞いてくれてて。ユイがいなかったら本当にやっていけなかったって思います」

歯切れ良く話す堀さんは部活再開の日の厳しい表情が消え、リラックスしているよう

だった。赤池さんはそんな堀さんの言葉を受けて、

「最初のうちは話を聞いてもアドバイスできなくて、でもちゃんと返さなくちやって思って、いろいろ考えるように意識したりしてました」

控えめに答えた赤池さんに対して「いやいや最初からアドバイス助かったよ」と堀さんはその謙遜を打ち消した。

この関係を尊く感じた私は、赤池さん連れてきてくれたことに感謝していた。2人はベンチに腰掛け、新型コロナウイルスが変えてしまった学校生活について話し始めた。堀さんは春先を思い返して、

「なんで3年間頑張ってきてこれなの？ って」

「うん。夏の大会に向けてもっと練習している時期だったのに、なんで家にいるんだろうって」



堀愛生さん（左）と赤池由衣さん（右）。思い出の公園にて。

『なんで?』しか出ない。1年生の時から、『3年生になったら……3年生になつたら……』って。大会も、文化祭も、『自分たちの代になつたら……』って思つてたのに。できないんだ、文化祭もできないんだ、去年で終わっちゃつたんだ……って。悲しいよね」

堀さんの話を、赤池さんは細かくうなずいて聞いていた。この公園で弱音を聞いてくれるアシスト役がいるから、堀さんは活動を制限され自由に踊れない今の状況でも部長として気丈に振る舞えているんだ。

言い訳は進歩の敵

次に山村国際高校ダンス部の練習を訪ねたのは8月7日。大会12日前だった。無事に地区予選を突破したチームは、大会作品の練習に没頭していた。

目標となるダンススタジアムでは全国大会になった4回目以降（それまでは東日本大

会、西日本大会と分かれた開催だった）、ビッグクラスは全て大阪の学校が優勝している。2019年大会を振り返っても優勝の帝塚山学院高校をはじめ、準優勝・堺西高校、第3位・久米田高校と、大阪勢が上位を独占。そんな中、大阪のチームに拮抗するハイレベルなダンスを展開する山村国際は毎年活躍を期待される「関東の雄」。応援するファンもたくさんいる。

2020年は、赤・紫・水色など色とりどりのパンツスーツで踊る作品で勝負するそう。つばの広いハットを深くかぶった部員たち。飛沫対策のマスクを合わせると彼女たちの顔はほとんど隠れ、顧問の原田先生でさえ名前を呼び間違えるほどだった。悩んでいたお互いの表情が見えない問題はより一層深刻になっていた。

それでも部長の堀さんをはじめ、チームの雰囲気はとても明るかった。短い練習期間をカバーするために、通し稽古の動画を共有。3年生がそれぞれ気になった場面をスクリーンショットして、直しのアドバイスメモを書き込んでグループメッセージに投稿する試みを続けているという。3年生の増尾佳那子^{ますお かなこ}さんは、

「ひとりひとりがアドバイスを確認して次の日には自分で直すっていう意識を

もって練習に臨んでいます」

人からのアドバイスだけに頼ってはいられない。それぞれ自分で客観視することで作品の質を向上させようとしていた。

しかし大会まであと2週間を切っているというのに練習は1日2時間のみ。実は同じ時期、新型コロナウイルスの影響が薄い地域では「特別練習」という名目で数時間の延長が認められていた学校もあったのだが、首都圏の感染者は増え続けていて山村国際はそうした措置をとることができなかった。練習量はいつもの追い込み時期の半分以下。加えてあの発声制限も継続中。部長の堀さんに尋ねると、

「この状況になって正直全部が乗り越えられたかって言われたらそうじゃないし。でもできることやるしかないからそこは切り替えてやっています」

そこで私はストレートに質問してみた。

「学校が関東にあることを不利に感じますか？」

堀さんはしばらく考え込んでから、

「学校のある場所を言い訳にしたくない。山村^{ヤマモリ}国際だけじゃないし、こういう状況になってるのは。『言い訳は進歩の敵』って言ってるし。言い訳してたら絶対強くなれないと思うから。部長がそんなこと言ったら、みんなは絶対ついてこない……目標は関東初の全国優勝です」

マスクをした彼女の顔は半分隠れていたが「できる限りの工夫はした」という自信と充実感がその瞳から感じられた。

大会当日、カラフルなスーツでパシフィコ横浜に登場した山村国際高校ダンス部。ステージでスタンバイ位置についた時から、集中力が研ぎ澄まされていることが見て取れた。音楽が流れ始める。これまで幾度も通し稽古を撮影させてもらったが、本番の素晴らしさは際立っていて別のダンスに見えたほどだった。

踊り終えた堀さんと赤池さんに話を聞いた。

「すごい！ うまくいったよね」

同じ言葉を発して笑みがこぼれる2人。あはははは。マスクの向こうから笑い声も聞こえてきた。そして堀さん。

「つらいこともたくさんあったんですけど、そのつらさも吹っ飛んじゃう2分10秒だったかなと思います」

山村国際は最長2分30秒まで認められている演技時間を20秒短くすることによって精度を高める作戦をとっていた。限られた練習時間でも上位に食い込めた一因だろう。最後に部長の堀さんを支え続けた赤池さんに聞いてみた。

「高校3年間で得たものはなんですか？」

「自分の意見をきちんと伝える大切さや、いつも前向きに考えたりして、精神が鍛えられたと思います」

3年続いた公園での本音のやりとりは、アシスト役のことも成長させていた。お辞儀をしてカメラから遠ざかっていく2人、背丈が同じくらいでよくなじんで見えた。結果は堂々の6位入賞。言い訳など何もないすがすがしいステージだった。

コロナ禍でのリモート部活

2020年3月。日本中の学校が休校措置をとった。それに伴って部活動が停止になった時、多くのダンス部はリモート活動に移行。LINEやZoomなどのコミュニケーションアプリを利用して一緒にダンスしたり、それぞれが自主練を撮影して動画を共有し、アドバイスを送りあったりしていた。私は彼女たちが踊っていない時間にもかなりの頻度でミーティングを開いていることを知り、顧問の先生たちを通して許可をいただ

き時折参加させてもらうことにした。コロナ禍で対面が禁じられた彼女たちは何を話していたのだろうか？

大阪府立久米田高校ダンス部は、ダンススタジアム2018年大会準優勝、2019年大会3位の实力を持つ。このチームの強さを支えてきたひとつが、文集だ。大会に向けて部員全員が優勝への決意を作文して意思統一してきた。顧問の八木克容^{やぎかつひろ}先生は授業では現代文を教えていて、気持ちを言語化することを大切に行っていたばかりか、原稿用紙に書く際には鉛筆ではなくボールペンを使うよう指示してダンスと同じく一発勝負の緊張感を部員たちが経験できるようにしていた。

久米田高校ダンス部は2020年の春にも「休校中にもレベルアップするために」というテーマでそれぞれ考えた内容をボールペンで書き、それをスマホで撮影してグループLINEにあげていた。いつもならこの手書きの文集で十分だったのだが、やはり2020年は何かが足りないと感じたらしい。4月18日に部長・副部長・ダンスリーダー部のまとめ役が出席したオンラインミーティングが開かれ、私も参加させてもらった。副部長の加世田^{かせだ}萌奈^{もな}さん（3年生）は、

「今は言葉の伝わり方が難しい時期だと思っています。みんなの状況が把握できてないです。前よりもみんなのことがわからなくて……」

3人は話を続けた。普通に部活ができていた頃、自分たちはいつ仲間の様子を感じ取っていたのか……？ ミーティングの終わりに先ほどと同じ副部長の加世田さんがひとつの答えを出した。

「私たちは部活の始まりに点呼をするんですけど、その時にみんなの顔を見ていました。声出している時じゃなくて、むしろ聞いている顔。みんな自分の番の時は元気に答えるんですけど、他の子が点呼している時に、ちょっと暗い顔だったり。ふとした時の表情が一番大切だと思うんです。そういう時の方が調子がわかりやすいです。そこからいろいろ読み取っていたんだと気づきました」

『ふとした時の表情』という着眼点に説得力を感じた私は、彼女たちの具体的な行動に

注目していた。

この会議から5日後、彼女たちが朝9時から始めたのは「オンライン点呼」。

Zoom でつながった部員たちが「○番○○です！ おはようございます」とテンポよく挨拶をしていく。初日は音声が混線したり宅配便が届いたり、世の中の多くの人が経験したような小さなトラブルが続出したものの、ダンス部らしいリズム感で、すぐに安定した点呼ができるようになった。まとめ役たちは、部員が答えていない時の素の表情に注目し、必要と判断したら個人的に声がけて悩みを聞くなどしてチームをまとめていった。

久米田高校は対面練習が再開した際、3ヶ月に及んだ練習停止を感じさせない段取りの良さを見せた。練習場の錠を開けて、掃除をしたりデッキを設置したり脱いだ上履きをきちんと並べたり……地味なルーティーンだが限られた部活の時間を有効に使うためには大切なこと。オンライン点呼で高く保たれたモチベーションがこうした段取りの良さにつながっていたと思う。

「どうする？ 新入生」

もうひとつ、オンライン活動での出来事をお伝えしたい。

全国屈指の強豪、大阪府立堺西高校。この学校はバレエの要素を取り入れたジャズダンスをベースにした作風で知られる。青いロングドレスや、紫のパンツスーツなど洗練された衣装と併せて、華やかな大会作品で毎年客席を沸かせてきた。

2年前に当時1年生だった部員23人に話を聞いたところ、全員がダンス部に入りたくて堺西高校を受験したという。彼女たちは先輩と同じような作品を踊りたいと口をそろえた。だが、あの華麗さは高い技術に裏打ちされたもの。1年生が堺西作品を踊りこなすのは至難の業で、彼女たちが苦しむ様子を過去の取材中に何度も目の当たりにしてきた。

堺西高校はダンススタジアム2019年大会で準優勝。日本一まであと一步のところに来ていた。2020年のコロナ禍にあっても意識は高く、個人練習の積み重ねで春の段階で部員ひとりひとりの基礎力は大きく向上していたという。私が最初のオンライン取材を行ったのは5月1日のこと。この時はまだ大会の開催は未定だったが、「優勝

するためには……」「優勝に向かって……」という発言が何度も聞こえてきた。その時1人の3年生が思い出したようにつぶやいた。

「どうする？ 新入生」

堺西は4月に入学式さえ行うことができておらず、部活も新入生を迎え入れることができないでいた。「どうする？ 新入生」。その一言をきっかけに意見が飛び交った。

「無理やんな。新入生いれるのは」

「でもダンスをやりたくて学校に入ってきた子はいれたいかな」

「でもまだ、出会ってもないで」

「ダンス上手か下手かはともかくコミュニケーションとられへんやろ」

「どうやって仲良くなっていけばいいのか？ 不安やわ」

3年生の多くは一度も対面していない新入生とチームを組むのは難しいと考えている

ようだった。悲願の初優勝をかけた大会が終わってからでもいいのでは？ という意見もあった。こうして新入生の部活参加について部長の元木^{もとぎ}菜々香^{ななか}さんと副部長の乗本^{のりもと}陽^ひ菜^なりさん、林^{はやし}風香^{ふうか}さんの3人で後日改めてオンライン会議が開かれた。

出遅れた1年生を迎え入れるには？

3人は自分たちが1年生だった時のことを話し始めた。

元木さん「もう2年たった。一番上（3年生）やもん」

乗本さん「毎日毎日……大変やった……」

林さん「大変やったなあ」

乗本さん「それがもう一番上（3年生）なんて……考えられへん」

元木さん「考えられへんわ、ほんま。あんなダメダメやったのに成長したわ。も

う全部いい思い出やな。いま考えたら。むしろ（先輩がたに）怒られた

時の方がよく覚えてるかもしれん」

しばらくして部長の元木さんがこう切り出した。

「ダンスだけじゃなくて先輩への態度とか。なんやろ、人として欠けてちゃいけないものを怒ってくれた。だからナナらは、怒られてた時期から2年たったけど、1人の人として成長できたから。自分たちの人生において、あの厳しい指導は意味があったんじゃないかって。ははっ（照れ笑い）。そんな感じやんな。伝わった？ 私たちはそうできるかな？ 1年生に」

つまり新入生をなんとか受け入れようという意思表示だった。3人は1年生に何ができるか話し始めた。

数日後、堺西高校ダンス部の公式SNSに一本の動画が上がった。2・3年生がそれぞれダンスを自撮りしてつなぎ合わせたものだ。そこには太字でメッセージが添えられていた。

「新入生が入部してくれる事を心待ちにしています。

初心者の方も、経験者の方も大歓迎です！

少しでもダンスに興味がある人、ダンスが大好きな人はクラブが出来るようになったときには

ぜひダンス部に来てください！

みなさんに会える事を楽しみにしています!!

高校生活の青春を共にダンス部で過ごしてみませんか？」

入部を検討している新入生からの質問も受け付けた。

「どうやったらそんなにリズムがそろうんですか？」

「合宿とかあるんですか？」

「衣装は手作りですか？」

上級生はその質問に、ひとつずつ丁寧に答えていった。「受験勉強の末に高校に合格し

たのに、コロナのせいで通うことができない——そんな2020年度の新入生にとって、先輩にあたる彼女たちの行動が与えたものは計り知れない。

部長の元木さんは対面練習の再開に向けて、副部長たちにこう方針を話していた。

「2年生は初めての後輩やから、絶対きよどるやん。いつ叱ったらいい？ みたいな。ナナらもそうやったように。だから3年が世話した方がはいい」

そしてもうひとつ。

「入ってくるのが遅いからって優しくするのは違うから。ちゃんと厳しくするけど落ちこみすぎないように最大限持ち上げる。そうするしかない？ 入れるんやったら」

この「最大限持ち上げる」ことが具体的に何を指すのか？ オンラインで話を聞いていた私にはイメージがでなかった。しかし部活が再開された時に3年生が送ってくれ

た動画を見てすぐにわかった。

基礎がおぼつかない1年生がきちんと踊りを披露したあとに聞こえてきたのは、上級生みんなの大きな拍手。お世辞を使つて言葉でほめることはせず、ダンスについては厳しい指摘をしていたが、拍手を送るという態度で歓迎の気持ちを最大限に表していたのだ。上級生の気配りが伝わっていることを1年生のはにかんだ表情が物語っていた。

2020年は新生生の参加を大幅に遅らせた学校もたくさんあった。多くの地域で部活動が再開された6月中旬は大会に向けて作品練習の真っ只中。新生生のケアに十分な時間を割くことができないと判断したのも無理はない。けれど堺西高校から送られてくる動画には、3年生の主力メンバーが新生生を教えている場面がたくさん含まれていた。

まさかの予選敗退。しかし……

ダンススタジアム2019年大会準優勝の堺西ダンス部は2020年8月2日に行われた近畿・中国・四国大会Bブロックで、まさかの予選敗退を喫する。堺西が全国大会に進めなかったのは、実に10年ぶり。ひょっとしたら、新生生を率先して受け入れたこ

とも一因かもしれない。しかし部長の元木さんのツイートには「悔いはありません」とはつきり記されていた。休校中の彼女の発言を何度も聞いていた私は、きっと勝敗を越えた何かをつかんだのだと思った。

2019年に訪れた堺西の校舎には、生徒全体を鼓舞するかのよう「ダンス部全国大会準優勝」と大きな垂れ幕があった。そして代々のダンス部が獲得してきたトロフィーが玄関に飾られていた。堺西の生徒にとって全国トップレベルの活躍は大切な誇り。そんなクラブに入ってきた新入生をSNSと大きな拍手で迎え入れた彼女たち。伝統と技術はコロナ禍でも途切れずに受け継がれたはずだ。名門・堺西高校がパシフィコ横浜・国立大ホールの舞台に返り咲く日を楽しみに待ちたい。

2017年の「バブリーダンス」

最初に高校ダンス部のドキュメンタリー企画を立てた頃、私は勝敗こそが重要なのだと考えていた。

2017年8月。あるダンス作品が世間を賑わした。大阪府立登美丘高校ダンス部に

よる、いわゆる「バブリーダンス」である。私も動画を繰り返し楽しんだ。

荻野目洋子さんが歌う1985年のヒット曲「ダンシング・ヒーロー」に合わせて、バブル期のディスコファッションに扮した女子高生たちがユーモラスな振り付けのダンスを披露する。2000年前後生まれの彼女たちが、経験していないバブル期をモチーフに踊る意外性はインパクト絶大。ネット上ではもちろん、ワイドショーや情報番組でも頻繁に取り上げられることとなった。作品の勢いそのままに登美丘ダンス部はその年の「NHK紅白歌合戦」にも出演を果たす。「ダンシング・ヒーロー」はリバイバルし、バブルネタを売りになっていた女性芸人・平野ノラさんともコラボ。「バブリーダンス」を真似して踊っている我が子の動画をSNSにアップする親も現れた。私はここまで世の中を騒がせるビッグコンテンツが一体どのようなようにして生み出されているのか、強い関心を持った。そしてこのコンテンツが生まれる舞台裏に密着し、成功のヒントを視聴者に伝えられたら、面白さと意義の両立ができると考えた。

このころ「バブリーダンス」ブームによって「ダンススタジオ」ひいては「部活ダンス」の存在自体も世代を越えて広く知られるようになった。登美丘高校の他にも強豪校と言われるチームが点在し、それぞれに個性あふれる作品で競い合っていた。例えば

前述の堺西高校はフェミニンなスタイル、久米田高校は強い女性を打ち出したスタイル。さらにダンススタジオム2017年大会の優勝作品である同志社香里高校「黒薔薇」に惹きつけられた。無駄を削ぎ落とした真っ黒な衣装で、手をムチのようにしならせる振りを細部までそろえ切るスタイル。現代的に洗練されていて大人っぽかった。

これらの学校は激しい優勝争いをくり広げていた。

2015年	優勝・登美丘	準優勝・光ヶ丘女子	3位・堺西
2016年	優勝・登美丘	準優勝・同志社香里	3位・堺西
2017年	優勝・同志社香里	準優勝・登美丘	3位・堺西

私はこうしたダンス部の作品を見ているうちに「部活ダンス」に関わる彼女たちのドキュメンタリー企画を思いついた。最大の関心事はやはり「どの学校が優勝するのか？」だった。

最初、NHKに提出した企画書には「日本一はどのチーム？」というストレートな仮タイトルをつけていた。

高校生による国内最大のダンス大会

ここで「日本高校ダンス部選手権 ダンススタジアム」の歴史を振り返っておこう。

ダンスが始まったのは2008年。これは学習指導要領の改訂によって、中学の体育でダンスが必修に向かうスタートとなった年だ。以降、日本の小中高生が踊ることは一般化し、それに伴って大会規模も年々大きくなっていく。

ダンスは「春の新人戦」「夏の全国大会」「冬のバトル大会」「選抜大会」などに分かれているが、最も参加校が多く部活ダンスの頂点を決めるとされるのが「夏の全国大会」である。以下の5項目で採点し、全審査員の合計点数で順位が決まる（満点は年によって違う）。

- 1 ビジュアル…衣装・表情など
- 2 エンターテインメント…演出・振り付け・フォーメーション・動きのメリハリ・見せ方
- 3 テクニク…ダンス技術・全員の動き・バランス・合わせ（ユニゾン）がそろっているか
- 4 音楽…使用音源の選曲・構成

5 スペシャルティ…各審査員の全体的総合評価

（審査員は「ダンスとビジュアル」「ダンスと音楽」が効果的に結びついて良い作品になっているかを判断している）、選曲が良いだけ、衣装がユニークなどでは高い点数は出ない。この点は誤って伝えられることが多いので補足しておく

ダンススタが2008年にスタートした時は大阪大会のみだった。ビッグクラスの優勝は同志社香里高校。その後2011年大会から関東と九州を含む全国大会になっている。この2011年の第4回から2013年の第6回まで、同志社香里がビッグクラス3連覇を成し遂げている。圧倒的な強さだった。中高一貫で6年間かけてじっくり技術を磨けるのが大きなアドバンテージだったと顧問の東久保愛美先生は語る。コーチをつけずに生徒の自主性にクラブを任せるといふチーム最大の特徴であるスタイルもこの時期に確立されていったという。

2014年大会は今宮高校が着物をまとい「和」を打ち出した作品で見事優勝。続い

同志社香里高校 同志社香里高等学校

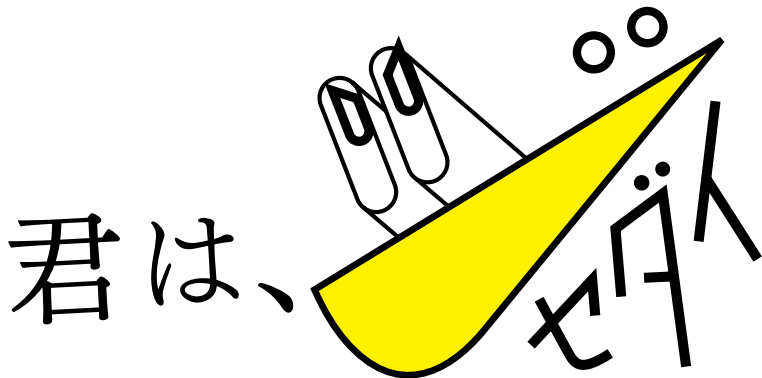
ビジュアル	エンターテインメント	テクニク	音楽	スペシャルティ	310
61	63	63	61	62	

5 項目の評価基準

た2015年大会は登美丘高校が大きな注目を集めた。作品モチーフは「1980年代のエアロビクス」。主役の高校生が生まれる前のヒット曲に合わせて、レトロな装いで踊るパフォーマンスは後の「バブリーダンス」にも通じる発想。振り付けはともユニークで、ふっくら体型の部員をあえてセンターに持ってきたりと、ユーモアたっぷり。技術的には決して全員が難しい振りを踊っているわけではない。小グループに分かれて踊っている場面では、シンブルな振りを繰り返しているグループもある。それでも曲のサビに合わせて全員がユニゾンする盛り上がりは、見ているこちらが手に汗握る熱さが宿っていた。「HERO」というこの作品で登美丘高校は2015年の第8回ダンススタを制して初優勝を果たした。

今宮高校、登美丘高校の独特なパフォーマンスは、たとえ技術が突出していなくてもアイディアと個性で優勝できるというメッセージともなり、全国のダンス部に勇気とやる気を与えた。公立高校が2年連続で優勝したことには大きなインパクトがあったのだ。

一方で優勝を2年続けて逃した同志社香里高校は岐路に立たされていた。2016年当時3年生だった川中真那かわなかまなさんに話を伺ったことがある。



何と闘うか？
<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、
行動機会提案サイトです。読む→考える→行
動する。このサイクルを、困難な時代にあっ
ても前向きに自分の人生を切り開いていこう
とする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月
開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。
「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、
すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!